

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年3月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691100038
法人名	社会福祉法人 椎原寿恵会
事業所名	グループホーム 金峰やすらぎ館
所在地	鹿児島県南さつま市金峰町宮崎3992番地1 (電話) 0993-58-4075
自己評価作成日	令和2年1月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年2月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居された方々への尊敬の念を持ち、その思いに耳を傾けることを重視しています。「生きがいを持てる暮らし」を確立するために野菜や花作りから、グラウンドゴルフ等の館外活動、家事全般に利用者の方々それぞれが活躍できる環境づくりを行なっています。また、多くの外出支援に取り組み気分転換を図ったり、季節を感じていただけるようにしています。認知症の啓発活動も積極的に行い、地域の方々へ理解を深めて頂いています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、同一法人のデイサービスセンターに隣接しており、避難訓練は合同で実施する等、協力体制が築かれている。また、系列の協力医療機関とは医療連携体制が整っており、定期的な往診や訪問看護師の健康管理と合わせて、利用者・家族の安心につながっている。
- ・自治会に加入し、総会や清掃活動・六月灯・グラウンドゴルフ等、地域行事に参加したり、事業所の避難訓練へ地域住民の参加や野菜の差し入れ、イベント時のボランティア等で日頃から相互交流が行われている。認知症サポーター養成講座に協力し相談に応じる等、地域貢献に取り組んでいる。
- ・職員の研修受講・資格取得の支援や法人の部長による個人面談や個別相談等、職員の質の向上と就業環境の整備に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は目に見えるところに掲示しており共有は出来ている。話し合いを行いながら実践に繋げるように努力している。	事業所独自の理念を目につきやすいホール・事務室に掲示し、職員会議で理念の確認とケアの振り返りを行い、日々の支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、地域の行事等、GH全体で積極的に参加し交流を図っている。GHの避難訓練にも地域の方々に協力をもらいながら行っている。	自治会に加入し、地域の総会・清掃・グランドゴルフ・六月灯等に参加している。事業所の避難訓練に住民の参加があり、ボランティアや高校生の実習受け入れ・住民からの野菜の差し入れ等で、地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の行事等に参加した際に事業所の活動などの話をしたり、キャラバンメイトとしてサポーター養成講座を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・行政・地域を交えて定期的に開催し、サービスへの意見を聞き、向上に繋げている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業所の状況報告と意見交換を実施している。助言を受けて家族に行事案内を送付し、行事に参加してもらう等、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	電話やメールで連絡をとりやすい環境が築けている。事故や感染症など、市の担当者にその都度指示を仰いでいる。	市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換や電話・メールでの連絡及び出向いての相談等で連携を図っている。市の研修会に参加し情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について毎年勉強会を行い、どういったことが身体拘束になるのか理解は出来ている。委員にて定期的に話し合いを行い、身体拘束のないように取り組んでいる。センサー等を使用する場合は、ご家族の了承を得て、不必要になった際にはすぐに外すようにしている。玄関の施錠は夜間のみしか行っておらず、出入りは自由にできるようになっている。	指針があり、委員会を月に1回、研修会を年1回実施している。威圧的な言葉や不適切な言葉は、気付いた時に管理者から注意を促している。玄関は施錠せず、職員の見守りで制限のない生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待について、年1回の勉強会を行い、防止に努めている。年2回、虐待についてセルフチェックを行い、未然に防ぐ様にしている。日頃のケアで起こる問題や課題は話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について、勉強会を行っているが理解できているまでには程遠い。ご家族と話をすることもあるが活用するまでには至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	申し込み時に、ある程度説明した上で申込みを頂き、入居時の説明の際にも疑問点や聞いておきたいことがないかその都度確認しながら説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者・担当者の両方と家族の関係作りを行い、意見が言いやすい環境作りに努めている。面会時や電話連絡時など意見や要望を引き出すような会話に努め、運営、処遇の向上につなげている。	利用者には日常の会話の中で要望等を聞いている。家族には、面会時等に要望を聞いており、出されたことにその都度対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議で意見を出してもらい、管理者の判断でできるものは決めるが、できないものは、上司の決裁を仰いでいる。また、必要時は臨時の職員会議を開き上司にも参加してもらっている。	職員会議で意見を聞く機会を設けたり、日常の業務の中で提案等を聞いている。ケアについてや備品購入に対する提案を反映している。年2回の個人面談や個別相談は、法人の部長が対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	賞与と昇給時は人事考課を行い、勤務状況、勤務態度に応じた評価を行っている。業務の責任を持たせ、入居者の生活や身体状況の改善に関わることで、やりがいを見いだせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>Off J TやO J Tを活用し人材育成に取り組んでいるが、人員の不足により外部の研修をほとんど受けることが出来ていない。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県・薩摩半島地区G H連絡協議会へ参加し、研修などで他事業所と情報交換を行い、いい部分は自事業所に取り入れたりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前から情報収集を行い、館での生活に1日でも早く馴染んで頂けるように努めているがアセスメントが行き届いていない面もある。要望等把握できるように積極的にコミュニケーションを図り、他の入居者との関係作りも行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は主に管理者が話を聞き、要望把握に努めている。面会時等には職員の方から話しかけるようにし、状況報告、情報収集等行い関係づくりに努めている。ご家族の思いなども良く聞き、疑問点については具体的に説明するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を汲み取りながら必要としていることを見極め、スタッフ全員で話し合い対応するようにしている。必要に応じて他のサービス利用もすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを図りながら一緒に作業等を行う事でその人の出来ることを見つけ、より良い関係を築けるように努めている。入居者の方に元気を頂いたり、わからない事はいろいろ教えてもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援体制について家族と話し合い、共に支援していくということを説明し、イベントの案内なども行い共に支援している。また、必要などときには家族へ支援をお願いしている。毎月の生活状況を家族へ報告し、面会に来ることが出来なくても状況がわかるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り支援や、行きつけの美容室、地域行事等に行くことで馴染みの関係が途切れないように努めているが、まだできる事がないか模索している。	家族・知人の面会時には居室でお茶を出したり、家族との受診や外食・外泊を支援し、職員も墓参りや美容室・買い物に同行するなど、これまでの関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間に入りレクリエーションやお茶会を行ったり、コミュニケーションを図ることで関わりが保てるように支援している。入居者同士の関係性を考え、良い関係づくりができるように配慮しているが、入居者間でのトラブルもみられている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院のため退居された方や、特養へ行かれた方は、時々面会をしている。退去された家族にあつたら近況を聞いたりしている。相談や支援は管理者が行なう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族へ聞き取りを行ったり、本人との会話の中から把握できるように努めている。困難な場合は生活暦や聞き取りの中から本人本位に近づけるように検討している。	日常の中で、居室や夜勤帯時の時に聞く機会をつくり、本人の思いを把握できるように努めている。困難な場合は、家族の情報や入居後の状況等を参考にして推測し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネからの情報提供書を見たり、契約時、面会時などに家族に聞き取りを行なっている。また、本人との会話の中からも把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報交換を行ったり、記録を見たりして全員が状態把握が出来るように努めている。新たな情報は連絡簿にも記載し皆が分かるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人より生活の意向を聞き計画を作成している。また、毎月、会議時にカンファレンスを行い確認と変更について話し合っている。話し合いに出来ない家族には、面会に来られた際に説明するようにしている。	面会や電話で家族の意見を聞いたり、担当者会議時に家族・職員・担当で話し合っって介護計画を作成している。モニタリングは毎月チェックし3ヶ月毎に取りまとめ、6ヶ月毎及び状況変化時に計画を見直している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に、日々の状況、心身の状態等を記載している。連絡簿やケアノートを使い職員間で情報共有し、カンファレンスやケアに活用している。また、その情報を基にケア委員で話し合いを行い、ケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しては、その都度話し合いを行い事業所で出来る限りの範囲内で臨機応変に対応しているが、事業所内で受けれる支援にとどまっている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加させてもらったり、地域内を散歩したりして四季の変化など感じてもらえるように支援している。また、近くの店など活用し、買い物など行ったりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護師と連携して健康管理を行なう中で、必要な場合は受診につなげている。また、専門外は紹介状を書いてもらい受診している。普段は2週間に1回の主治医の訪問診療がある。	契約時に希望を確認し、全員が母体医療機関をかかりつけ医としている。月2回の往診と週2回の訪問看護師による健康チェックを行っている。他科受診は職員が同行し、結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問時に変化や気づきを看護師に伝え、連絡簿も活用し情報の共有を行なっている。その中で必要があれば受診につなげたりしている。また、緊急時もすぐに連絡が取れる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や相談員、看護部長と連携し今後の生活について話し合いを行なっている。話し合いの中でお互いが出来る支援について決めている。日頃より会話を交わしたりして関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の意向を聞き、事業所で出来る限りのことを説明している。入居者の状態が変化していく中で、面会時などに今後のあり方について都度話を行い、スタッフにも伝え情報共有をしている。必要時は主治医、訪問看護師、家族とともに話し合いを行っている。	契約時に指針で説明し、同意書をもっており、特別養護老人ホーム等の選択肢については状況に応じて説明している。状況変化時に、医師・家族・職員で話し合い、家族の意向に沿って支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救急救命講習を消防隊員より受けている。急変時の対応についてもマニュアルがあり、連絡網を作成しており、実践にも繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、昼夜想定し、災害に備えた避難訓練をしている。地域の方々にも連絡網を作っていたいでいる。2回とも地域協力のもと訓練を行っている。</p>	<p>年2回昼夜想定で避難訓練を実施しており、年1回の消防署立ち合い時は運営推進会議を同日に兼ねて実施し、隣接デイサービスや住民の参加もある。1回は自主訓練を、公民館主事の協力を得て避難所までの移動訓練を行っている。備蓄は、水・レトルト食品等を3日分確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重するように努めているが、時折言葉遣いが上から目線になったり、命令口調になったりしている。	年1回研修を実施し、職員会議時に接遇委員会の指導も実施している。一人ひとりを尊重し、入室時の声掛け等でプライバシーの確保に努め、排せつ介助時は羞恥心に配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	疑問符で問いかけるようにしているが、職員本位で決定してしまっているところもある。入居者の方が決定しやすい提案の仕方に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースに合わせてるように努力はしているが、職員の不足により支援できていない日がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整髪、整容は毎朝起床時に整えることができるように準備し、自分で出来ない方はお手伝いをしている。衣服についてもご本人と一緒に選ぶようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から片付けまで、それぞれを分担しながら職員と一緒にこなしている。また、利用者の方に好きなものをお聞きしメニューに取り入れるようにしている。季節に応じて料理の内容も考えている。	旬の差し入れの野菜や嗜好を取り入れて調理し、代替品や食事形態にも配慮している。利用者と一緒に、下ごしらえや調理・片づけをしている。季節の行事食や弁当持参の花見等、食べる楽しみにも工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の病気、状態に応じた量、食事形態、味付けで提供し一日にどれだけ摂取しているかわかるようにしてある。水分の確保が難しい方にはゼリーや果物、好まれる飲み物を出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた出来るところまでして頂き、仕上げ磨き、義歯洗浄を毎日行い清潔に努めている。自分で出来ない方はスポンジ、ガーゼ等使用し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ケア委員会を中心にチェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンをつかみ日中はトイレにて排泄できるように誘導している。おむつの使用に関しても委員で検討し、できるだけ使わないようにしている。夜間はその方の状態に合わせてポータブルトイレやおむつを使用している。	チェック表を使用して個々の排泄パターンを把握している。昼間は、誘導等によりトイレでの排泄を支援しており、自立している利用者もいる。ケア委員会でパットの種類等の適切な排泄用品を検討している。夜間は状況により、ポータブルトイレやオムツを使用する利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響は理解できている。飲食物も通じによいものを使用し、水分もこまめに摂るように勧めている。排便チェックを毎日行ない、コントロールが上手くできない方は内服にて調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴できるように体制は整えてあるが時間、職員数の都合で入居者の思いに添えられないときがある。夜に入りたいという方への支援が全くできていない。	毎日午後に入浴を実施し、週3回以上の入浴を目標にしている。身体状況や希望で、2人介助・同性介助を行って、入浴を安全にゆっくり楽しんでもらっている。嫌がる場合は、時間を置いたり、無理強いせず翌日に入ってもらおうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて休む時間は好きにしてもらっているが、昼夜逆転の無いよう日中の活動を支援し夜間ゆっくり休んでいただけるように努めている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用量については変更時に連絡簿へ記入し、わからないときはお薬手帳にて確認したり、ネット検索し調べている。状態観察に努め症状の変化等は往診時や訪問時に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全職員が、全入居者の生活暦を把握できていない。各委員会で行事などを計画し、入居者の方々の楽しみになるように努めているが、毎日することが定着しており気分転換などの取り組みが不十分である。嗜好品など、出来るだけ制限せず、家庭と同じ様に過ごせるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩やドライブ、買い物は希望に添えるように努め、ご家族の方へも面会するときなどご本人の希望を伝えたり、必要時は協力してご家族と本人と一緒に出かけようとしている。事業所でも年間を通し外出の機会が多く計画してあるが、職員不足もあり希望に添えることが出来ていない。	日常的に散歩や外気浴をしている。計画を立てて、初詣・季節の花見・外食ドライブ・法人の秋祭りに出かけている。希望で墓参りや美容室に職員が同行したり、家族と受診・外食・外泊等に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方は自分で所持しているがほとんどの方は職員が管理している。使えるようにはしてあるが希望の品の購入は職員が行い、御自分で支払いをするような支援は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	暑中見舞い、年賀状は個々の能力に応じて書いてもらい、家族に出すようにしている。出来ない方は職員と一緒に工夫を凝らしながら作成している。贈り物等があった時は、折り返し家族へ電話し本人に取り次いだり、要望があったときに支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調管理等行い、過ごしやすい様になっている。不快を招かないように注意はしているが物音を立てたり、声が大きかったりするときがある。季節にあった花を飾ったり絵を貼ったりして季節感を出しているが不十分である。	リビングから広いウッドデッキにつながり開放的で明るい。室内は適度に空調が調節され過ごしやすい空間となっている。壁等に飾られた作品・行事の写真で利用者の状況がわかる。季節の花が飾ってあり、畳スペースやソファでくつろげるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂だけではなく、和室を活用したり、気候がいい時はテラスなども使用しそれぞれの居場所の工夫をしている。食堂での席なども入居者同の関係性を考慮し、居心地の良い空間づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等あれば持ってきていただくようにしてあるが、ほとんどの方が購入し新しいものを使用している。写真を飾ったり、テレビを置いたりして落ち着いて過ごせるようにしている。要望も聞き、配置換え等も行っている。	居室は出窓で広さが感じられ、ベッド・物入れ・エアコンがあり、寝具はリースで清潔に保たれている。本人の使い慣れた机やいす・テレビ等の家具や位牌・遺影・ぬいぐるみ等を身近において、本人が落ち着いて過ごせるような部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方の目線の高さに合わせた表示を行っておりそれぞれの方がわかるようにしてある。家事作業も入居者の方から見えるところで行っており、声をかけてもらえるようにしている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない